



京都大学の初代総長木下廣次は、履修科目の選択肢を広げるなど、学生の自主性を尊重した教育方針を採用したことで知られている。京都大学創立後最初の入学宣誓式において、木下は「大学学生に在りては自重自敬を旨とし以て自立独立を期せざるべからず」と述べている。

INDEX

■ 目次・基本理念	1
■ ご挨拶	2
■ 沿革	3-4
■ 歴代総長・創立以来の比較	5
■ 組織	6-7
■ 役員・役職者等	8-11
■ 大学院・学部	12-15
■ 附置研究所	16
■ 教育研究施設等	17-18
■ 栄誉	19-20
■ 職員数	21-22
■ 学生数等	23-24
■ 入学状況	25-26
■ 卒業生・修了者数等	27-28
■ 進路・就職状況	29-30
■ 国際交流	31-36
■ 財務状況	37-41
■ 外部資金	42-46
■ 発明・特許・知的財産	47
■ 土地面積	48
■ 建物面積等	49
■ 蔵書数	50
■ 患者数	51
■ 総合博物館・水族館入館者数	52
■ 所在地一覧	53-54
■ 研究所・附属研究施設等位置図	55
■ 教職員像・環境憲章	56
■ アクセスマップ・アカデミックカレンダー	57

京都大学の基本理念

京都大学は、創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、多元的な課題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献するため、自由と調和を基礎に、ここに基本理念を定める。

研究

1. 京都大学は、研究の自由と自主を基礎に、高い倫理性を備えた研究活動により、世界的に卓越した知の創造を行う。
2. 京都大学は、総合大学として、基礎研究と応用研究、文科系と理科系の研究の多様な発展と統合をはかる。

教育

3. 京都大学は、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる。
4. 京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。

社会との関係

5. 京都大学は、開かれた大学として、日本および地域の社会との連携を強めるとともに、自由と調和に基づく知を社会に伝える。
6. 京都大学は、世界に開かれた大学として、国際交流を深め、地球社会の調和ある共存に貢献する。

運営

7. 京都大学は、学問の自由な発展に資するため、教育研究組織の自治を尊重するとともに、全学的な調和をめざす。
8. 京都大学は、環境に配慮し、人権を尊重した運営を行うとともに、社会的な説明責任に応える。